

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①第44回スケート記録会
- ②雑巾の寄贈について／スケート靴の寄贈について／令和6年度教育委員会表彰
- ③令和6年度読書感想文コンクール
- ④部活動地域展開に向けて／1月定例教育委員会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動報告

第44回厚真町スケート記録会

1月25日（土）、町民スケートリンクを会場に第44回厚真町スケート記録会を開催しました。

今年度は町内の小中学生34人が参加し、その実力を競い合いました。

今冬の例に見ない気温の高さによりリンクの状態が良好とは言えず、一時は開催が危ぶまれましたが、当日は晴天の下、全種目を予定どおり実施することができました。



参加した小中学生は日ごろの練習の成果を存分に発揮し、保護者の方々や来賓の皆様の応援にも熱が入っていました。

各種目の表彰式では、遠藤教育長から入賞者にメダルが授与され、努力が実った子ども達の満面の笑顔を見ることができました。

受賞者の主な成績は下記のとおりです。

第44回厚真町スケート記録会成績 ※敬称略

- 【小学男子】 《50㍽》 ▽1年①矢代 翔太郎（中央）②木本 創大（中央）③渡辺 来（中央）
 ▽2年①荒井 虹海（上厚真）②吉能 拓真（中央）
 《100㍽》 ▽3年①渡辺 柊（中央）
 《250㍽》 ▽1年①内沢 維吹（上厚真）
 ▽3年①宮 幸志朗（中央）②木本 翔琉（中央）
 《500㍽》 ▽3年①大友 晴仁（中央）②木本 琉維（中央）
 ▽4年①飯田 拓充（中央）②志田 康太郎（中央）③大垣 謙心（中央）
 ▽5年①内沢 慶翔（上厚真）②金子 春樹（上厚真）③宮 伸太郎（中央）
 ▽6年①柿崎 音羽（中央）
- 【小学女子】 《50㍽》 ▽1年①菅原 三椿（上厚真）
 《100㍽》 ▽1年①菊池 紡（中央）②奈良 光咲（中央）
 ▽3年①菅原 一乃（上厚真）②佐藤 旭（中央）③木本 華菜（中央）
 《250㍽》 ▽1年①菊池 紡（中央） ▽2年①中田 芙緑（中央）
 《500㍽》 ▽3年①荒山 千咲（中央）②大垣 杜子（中央）
 ▽4年①浅井 碧優（上厚真） ▽5年①浅井 優杏（上厚真）
 ▽6年①森崎 凜（上厚真）
- 【中学】 《1,000㍽・500㍽》 ▽2年①菊池 莉多（厚中）
- 【スラローム走】 ▽小学1・2年①矢代 翔太郎（中央）②菅原 三椿（上厚真）
 ▽小学3・4年①飯田 拓充（中央）②志田 康太郎（中央）③大友 晴仁（中央）
 ▽小学5・6年①渡辺 創士（上厚真）
- 【2,000mリレー】 ▽①厚真ガールズ ②Xサターン ③上厚真ボーイズ

あつまるカフェならやま支部様から 小学校2校に雑巾を寄贈いただきました！

厚北地域防災コミュニティーセンターならやまで活動している厚北地区の女性の方々による団体「あつまるカフェならやま支部」の皆さんから、厚真中央小学校・上厚真小学校へ合計120枚の雑巾を寄贈いただきました。

この度いただいた雑巾は、全国から寄付されたタオルを材料に、あつまるカフェの皆さんが冬季間にコミュニティーセンターに集まり、1枚ずつ手縫いで作ったものです。

寄贈いただいた雑巾は各校で大切にに使わせていただきます。あつまるカフェならやま支部の皆さん、ありがとうございました。



上厚真小学校への寄贈の様子

株式会社厚信電機様から スケート靴を寄贈いただきました

1月21日（火）、株式会社厚信電機様から町への地域貢献活動として、スピードスケート靴3足、フィギュアスケート5足の合計8足を寄贈いただきました。寄贈されたスケート靴は、町民スケートリンクで誰でもレンタルすることが可能です。

町民スケートリンクでは、昨シーズンから町民の皆さんから寄付をいただいたスケート靴の無料レンタルを実施しています。このたび、厚信電機様から寄贈いただいたものと合わせて48足のレンタルシューズがあり、今シーズンは170件ほどのレンタル実績がありました。

町民スケートリンクは2月15日をもって今シーズンの営業を終了しましたが、冬場の健康づくり・体力向上のために気軽に取り組めるスポーツとして、来シーズンも多くの方の皆さんにリンク及びレンタルシューズを利用していただけたいと思います。



寄贈いただいたスケート靴

令和6年度厚真町教育委員会表彰

厚真中3年 赤崎 蓮さん（表町）を表彰

1月15日（水）、厚真中学校体育館で、令和6年度厚真町教育委員会表彰式を行いました。

今回は、厚真スローイングチームに所属し、陸上競技において複数の全国大会入賞の成績を収めた3年生の赤崎 蓮さん（表町）に教育長から祝いの言葉とともに表彰状が授与されました。受賞者の功績は下記のとおりです。

赤崎 蓮さん

- ・第51回全日本中学校陸上競技選手権大会
男子砲丸投3位入賞
- ・JOCジュニアオリンピックカップ
第55回U16陸上競技大会 男子円盤投4位入賞 など



令和6年度読書感想文コンクール

町内の小学生を対象に、「本に親しみ、豊かな心を育むこと」を目的に冬休み期間中に開催した「読書感想文コンクール」には、町内2校の小学校から17点の作品が寄せられました。応募いただいた児童の皆さん、ありがとうございました。

また、2月15日（土）には表彰式を行い、遠藤教育長から受賞した皆さんへ賞状と盾が手渡されました。今回、受賞した児童は下記のとおりです。

- 【1年生】《最優秀賞》菅原 三椿（上厚真）
 《優秀賞》齋藤 学（中央）
 奈良 光咲（中央）
- 【2年生】《最優秀賞》南部 真結華（中央）
 《優秀賞》中田 芙緑（中央）
- 【3年生】《最優秀賞》堀川 真紗斗（中央）
 《優秀賞》大友 晴仁（中央）
 菅原 一乃（上厚真）
- 【5年生】《最優秀賞》山崎 叶夏（上厚真）
 《優秀賞》三浦 菫（上厚真）
- 【6年生】《大賞》小向 桜（上厚真）
 《優秀賞》菊地 愛徠（中央）
 神代 心咲（中央）

※敬称略



表彰式で笑顔を見せる13人の受賞児童



大賞作品

「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと

上厚真小学校 6年 小向 桜

私は、二学期の後半、社会の授業で原爆について知った。聞いたことはあったが、くわしく調べるのは初めてだった。調べてみるとたくさんの人が犠牲になったと知り、いなくなるべきではなかった人が消えてしまった悲しさ、原爆への怒りをもった。そこで、いなくなってしまった人の思い、その後のことが気になりこの本を手にとった。この本は、鈴木六郎さん一家が原爆で命を奪われたことについて書かれている絵本を書く時の筆者の様子が書かれている。

私は、筆者が自分と関係ない家族のことを追い求めようとする姿勢が印象に残った。

筆者は、広島で六郎さん一家の写真を見つけた。だが、その家族は原爆で全滅してしまったと知り、それを基に本を作ることにした。六郎さんの親戚である人と話したり、何度も広島に行ったりした。私は原爆の関係者ではないが、こんなに原爆のことを調べている人がいるんだと、とても嬉しくなった。

本の最後のほうには、「時間が経てば経つほど追いかけるのが困難になるあしあとがたくさんあるのは明らかなのです。」「自分の心に深くひびき、働きかけてくる「何か」があれば、これからも力の限り追いかけていきたい。」と書かれていた。その言葉が強く印象に残った。

私は、原爆は二度とあってはいけぬものと改めて感じた。

六郎さん一家の長男英昭くんは、ひどいケガを負った妹の公子ちゃんを背負って逃げていたが別れてしまった。公子ちゃんは別れる前に「おにいちゃん、このカタキとってね」と言い残し、そのまま行方不明になってしまった。私は、公子ちゃんが最後に言い残した言葉がなぜ「カタキとってね」だったのか不思議に思った。私は、小さい子どもからそのような言葉が出るほど日常的にそのような言葉を聞かされていたからなのではないかと考えた。本には「当時ならばこの言葉は、ほめられる言葉だったのかもしれない……。」と書かれている。筆者の考えにすごく納得した。

私は、この本を読んで二つのことを学んだ。まず一つ目は、この世に追いかけられるあしあととはたくさんあるという事だ。私が体験した胆振東部地震など、まだまだその他にもたくさんあるだろう。この本を読んでそのように調査するのも楽しそうだと思えた。

二つ目は、平和であることが一番の幸せであるということだ。今の日本には戦争がない。だからこそ、戦争、原爆の恐ろしさを忘れずに後世にも「平和が一番」ということを伝えていくべきだと思った。この本の筆者のように今までにあった出来事を伝えられるようにになりたい。

部活動地域展開に向けて

少子化の進展により、学校単位での部活動展開や存続が困難になる中、教育委員会では子どもたちがスポーツ・文化活動に継続的に親しめる機会を確保するために『部活動地域展開の取組み』を進めています。

令和5年度に学校、スポーツ少年団、体育協会、文化協会等の代表者からなる『厚真町地域クラブ検討会議』が発足し、地域のスポーツ・文化活動の振興について議論を重ねてきました。

検討会議では、厚真町に新たなスポーツ・文化活動振興団体として『総合型地域クラブ（仮称）A-style』を創設し、本町のスポーツ・文化活動の一体的な環境整備に努めることで、中学生のみならず地域住民にとってより良い活動環境を創る方針について合意されました。『総合型地域クラブ』が機能することで、従来の部活動が地域で展開される『部活動地域展開』を令和9年度までに実現することを目指しています。令和7年1月～2月にかけては、プレ事業として少年団・部活動合同練習会と地域指導者研修会が行われ、多様多世代による交流促進や地域指導者の資質向上に向けた取組みが行われました。

令和7年4月からは、総合型地域クラブ設立準備委員会によるクラブ立ち上げの準備が本格化していきます。この取組みに興味関心のある方は下記までご連絡ください。

教育委員会社会教育グループ内
総合型地域クラブ設立準備委員会
☎27-2495



1月22日にスポーツセンターで開催された合同練習会には37人の小中高生が参加



2月1日にスタードームで行われた地域スポーツ指導者研修会は14人の指導者が参加

1月定例教育委員会

1月30日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

地域公民館の指定管理に関する説明会／放課後子ども教室特別教室「冬の森あそび&木のツルでリースづくり」／町民スケートリンク開設／長期休業中小中学校学習会／冬休みスケート教室／ディスカバリーカルチャー／令和6年度第3回厚真町二十歳のつどい／まが玉づくり／厚真未来カレッジ／恵庭市アイヌ文化マスター育成事業視察対応

◆議案

厚真町スポーツ施設管理規則の改正について

◆報告

厚真町総合型地域クラブ創設アドバイザー設置要綱の制定について／他1件

◆協議

厚真町外国青年英語指導助手の報酬及び費用弁償支給条例の一部改正について／令和7年度当初予算の概要について／総合教育会議について

★問合せ

教育委員会学校教育グループ
☎27-2494



本屋大賞 2025 ノミネート作品の紹介

図書室では、芥川賞・直木賞よりも注目度が高いと思われる本屋大賞の季節がやってきました。ノミネート作品は2023年11月から2024年11月末までに刊行された10タイトルです。すでに読了された作品もあるかと思いますが、この機会にもう一度手に取ってみるのはいかがでしょうか。

◆アルプス席の母 早見和真／著
◇カフネ 阿部暁子／著
◆禁忌の子 山口未桜／著
◇恋とか愛とかやさしさなら 一穂ミチ／著
◆小説 野崎まど／著

◆死んだ山田と教室 金子玲介／著
◇Spring 恩田陸／著
◆生殖記 朝井リョウ／著
◇成瀬は信じた道をいく 宮島未奈／著
◆人魚が逃げた 青山美智子／著
※書名五十音順



図書室のちょっとした話

「パソコンの関連本はどこにあるの？」

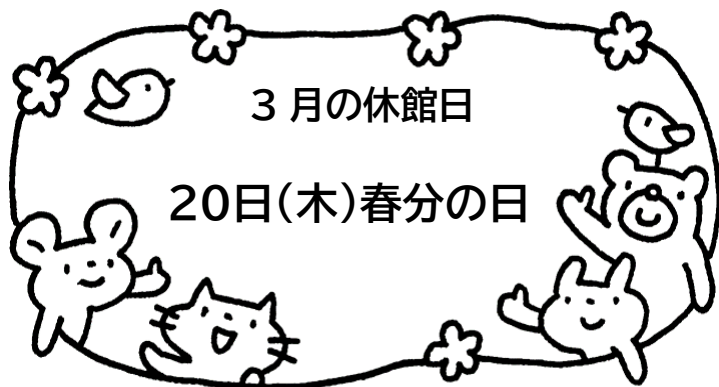


「パソコンの本を探しているのだけれど」と質問を受けた時には、パソコンで何がしたいかをあたねします。Windows のソフト Excel や Word の使い方、動画や写真の編集、タブレットやスマートフォンの使い方など、どれもパソコン関連本ですが、図書館に使用している分類法に当てはめると配架場所が異なるのです。

Excel や Word は情報分野の0番、動画や写真は芸術分野の7番、タブレットやスマートフォンは電気工学の

5番に配架されています。全部パソコン関連本でまとめてしまえば良くないかしらと思われるかもしれませんが、目当ての本以外に触れる機会が減るかもしれません。例えば SNS は子どもの成長、人間関係、闇バイトなどに関係していますが、現代のビジネスには欠かせませんし、社会情勢を動かすこともある道具です。

分類やジャンルを超えた配架については、全国の図書館で挑戦しており、うまくいったりいかなかったりしているようです。厚真町の図書室なら実験的に挑戦しやすいかもしれません。



3月の休館日

20日(木)春分の日

■青少年センター図書室開館時間

9時00分～17時00分(月・水・金・土・日)

9時00分～19時00分(火・木)

※祝日、年末年始は休館となります。

■厚南会館図書室

9時00分～17時00分(月～日)

※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

3月の「おはなしのびっ子」はおやすみです

☆放課後子ども教室活動報告☆

今年の冬は暖冬ですね。あの息を吸い込むと肺の中がキンと冷えるような、厚真らしい寒さを感じないまま、2月も半ばを過ぎました。人の体には優しいけれど、この暖かな冬は、自然環境や田畑にとってどんな影響があるのだろうか、何となく心がざわつく今日この頃です。

例年に比べて雪が少ない中ですが、やはりこの時期は雪遊びを楽しみたいと、雪の残る斜面を見つけては、そりを片手にあちらへ、こちらへ、学校の周辺で雪が積もっている場所を探して、子どもたちと探検に出かけています。今、目の前にある環境の中で楽しみを見つける。このチカラを持っている厚真の子どもたちは、とてもクリエイティブ（創造的）に遊びを生み出していきます。ときには、きっかけや気づきを与えることもあります。それもほんのわずかなものです。あとは、子どもたちが見つけた遊びをスタッフも一緒になって楽しんでいると、相乗効果でまた遊びの幅が広がっていきます。確かに、十分な雪の量があればできる遊びもありますが、それが手に入らないからといって、季節ならではの遊びの機会をあきらめる必要はないんだと、子どもたちのキラキラした笑顔を見て、改めて実感しました。

2月の子ども教室は、プログラムに応じたゲストに来てもらう機会が多くありました。上厚真小の学校林探検では、林業家の永山尚貴さんに来ていただき、森の木にロープをかけて大きなブランコを作ってもらいました。自分の背丈の何倍もの高さまで上がるブランコは、子どもたちに大人気。何度も何度も順番待ちの列に並んで楽しんでいました。それから、今は大学生になり、社会教育や自然体験を学んでいる卒業生も、社会人になった友達を誘って遊びに来てくれました。特に細かな指示を出さなくても、誘い合わせて雪合戦を始めたり、雪だるまを作ったり、自然と小学生に歩み寄っていく姿に感心しました。彼らが小学生の頃にも同じように活動を提供していましたが、子ども時代の経験値が生きているように感じました。卒業生からは「私たちが小学生の時は、あんなブランコなかったけど」と、チクリと痛いところを突かれましたが、放課後子ども教室が始まって13年、活動の内容も進化をしているということで許してもらいたいと思います。ゲストを招いてのプログラムは、2月の後半に西埜馬搬さんにご協力をいただき、グラウンドで馬そり体験を予定しています。



令和6年度厚真町放課後子ども教室活動報告会を開催いたします！

◆日時：2025年3月8日(土) 11:30～12:30

◆場所：厚南児童会館(上厚真)※宮の森子ども園の奥になります

◆参加費無料・事前申込不要

子どもたちがどのように放課後の時間を楽しんでいるか、お昼ご飯を食べながら、写真のスライドショーやクイズをまじえてお伝えします。どなたでも、ぜひご来場ください！

待ってまーす！

